

# 各地からの たより

森と湖に親しむ集いでの  
森林環境教育

青森森林管理署



職員による紙芝居

農林水産省と国土交通省の定める「森と湖に親しむ旬間」の趣旨に沿って、7月8日(火)に当署と東青地域県民局地域整備部及び青森市が共催し、「森と湖に親しみ、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている、自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただく」ことを目的に、青森市の下湯ダムにおいて「森と湖に親しむ集い」を開催しました。今年は青森市立泉川小学校の4年生97名に、ダムや森林の働き等を学んでもらいました。



- 青森森林管理署
- 盛岡森林管理署
- 岩手南部森林管理署遠野支署
- 技術普及課



丸太切り疲れた～

当日は、ダムの役割と働きのパネル説明と見学、ロックフィルダム内部の発電室探検、記念植樹(緑化木)、森林教室と丸太切り体験、昼食を挟んで鯉の放流と盛りだくさんのプログラムの中で、当署によるアトラクションは昼食前の疲れがはじめる時間帯となりましたが、生徒97名を2班に分け前後半で森林教室と丸太切り体験を行い、特に体を動かす丸太切り体験では疲れを吹き飛ばし全生徒が楽しんでくれました。森林教室では紙芝居「森林からの贈り物」を若手職員が丁寧に演じ、生徒全員で紙芝居の内容を確かめながら、森林の多面的機能や森林管理署の仕事等について理解を深めてもらいました。また、丸太切り体験では、初めて鋸を持つ子どもも少なくなかったです。

が、職員の手ほどきを受け無事切り終え、切り取った円盤を大事に持ち帰ってくれました。最後に、主催者は、主催者と引率の先生から「今日皆さんが

見聞きしたこと、体験や感想をぜひ家に帰って家族の人に話して下さい。」とのまとめの挨拶があり、好天の下での行事を終えました。

## 平成26年度採材協議会を開催

盛岡森林管理署

7月4日(金)、当署と岩手北部森林管理署の共催により、平成26年度採材協議会を雫石町内の素材生産現場で開催しました。国有林側からは、両署のほか青森事務所から担当者が出席し、素材生産を担う業界側からは9事業体が参加しました。



盛岡署担当官による説明

冒頭、盛岡署長から、素材生産の進行政管理、誤伐防止、安全作業の徹底、そして今回の協議会のテーマである4m材比率向上等の重要性について理解を求めました。

その後、岩手県森林組合連合会の米澤氏より、最近の木材市況について説明を受け、続いて盛岡、岩手北部両署の担当官がそれぞれの署における採材方法や長級別の販売単価の実績について具体的に説明を行いました。



4 mの採材が可能か検討中

午後からは、盛岡署次長の進行の下でグループに分かれ、4m材が採材可能か検討を行いました。全員真剣な面持ちで検討に参加し、それぞれの採材の考え方を説明し合ったあと、実際に造材し、採材の適否を検証しました。

曲がりの見立てなど技術的な難しさはあるものの、有利採材の重要性については十分理解が得られたのではないかと考えられます。

最後に、作業道の作設から伐倒、玉切りまでをこなすことができる最新式のタッチメントを搭載した重機の実演を見学し、採材協議会を終了しました。



ザウルス・ロボ  
(雫石地区国有林材生産協同組合所有)



## 不法投棄物クリーン活動の実施について

### 岩手南部森林管理署遠野支署

遠野支署では、毎年7月に設定されている「国民の森林クリーン月間」に合わせて、7月24日（木）、不法投棄物クリーン活動（撤去作業）を実施しました。

前日の雨で実施が危ぶまれましたが、当日は好天に恵まれて、遠野市、県南広域振興局遠野土木センター、遠野農林振興センター、遠野地方森林組合などの関係機関と森林ボランティア及び支署職員総勢31名が参加し、対象区域を国有林から公有林までの遠野市内10箇所5班に分かれて、撤去回収作業及び啓発看板の設置を行いました。

各班とも気温が高い中での作業となり、汗を拭きながら冷蔵庫、ブラウン管テレビ、古タイヤ、ストーブ、掃除機、ドラム缶などのほかに、農業用耕耘機の荷台といった特殊な大型不法投棄物を撤去回収し、撤去回収したものは、2トトラック3台分にもおよぶ量になりました。

作業終了後は、当支署会議室において参加者全員による意見交換を行い、各班の代表者から回収物や問題点などの報告を受け、各代表者からは、「不法投棄物が広範囲にあり、撤去回収の移動に時間がかかった」、「発見した段階で流域ごとにまとめてはどうか」、「草等が伸び見づけるので、時期を早めてはどうか」などの様々な意見があった。

また、今後の撤去回収方法などについて話し合われ、今後も各機関が協力してこのような取組を継続して行くことを確認して終了しました。

なお、この活動の様子は、夕方の地元ケーブルテレビ、翌日の朝刊に作業の様子が取り上げられ、遠野市長からもお礼の言葉をいただくなど、遠野市民にも不法投棄防止の啓発活動として周知されたものと思っています。



撤去作業を行う参加者

## 平成26年度国民の森林づくり推進功労者に対する感謝状贈呈式及び活動報告会を開催

### 技術普及課

東北森林管理局では、毎年度、東北の国有林をフィールドとした森林づくりや森林環境保護に功績のあった方々に対し感謝状を贈呈しております。中でも、その功績が特に顕著であった方々については、林野庁においても表彰しているところです。

今年度は、山形県酒田市の「万里の松原に親しむ会」（平成18年度局長表彰）が長官感謝状を受賞、岩手県西和賀町の「カタクリの会」が局長感謝状を受賞し、7月9日（水）、東北森林管理局において黒川正美局長より感謝状の贈呈を行い



右から「万里の松原に親しむ会」三沢会長・木島事務局長、黒川局長、「カタクリの会」瀨川会長夫妻、青山技術普及課長

ました。また、贈呈式に引き続き、両受賞者より国有林での活動状況について報告をいただきました。受賞者の功績は次のとおりです。

「万里の松原に親しむ会」は、山形県酒田市の海岸防災林「万里の松原」の保全を目的として平成13年に設立し、国有林等60haを主な活動エリアとして、下刈や枝打、植栽など庄内海岸のクロマツ林の保全活動に取り組んできました。

また、庄内海岸林を守るために広域NPO、ボランティア団体、教育機関、行政などから組織された「出羽庄内公益の森づくりを考える会」の主要メンバー、かつ、実働組織として、同県庄内総合支庁等が主催する各種ボランティア活動に積極的に参加しています。さらに、地域の小中学校や高校と連携した森林環境教育の企画及び実践を通じて、先人達が長い年月をかけて築いてきた海岸林の歴史と大切さを子どもたちへと伝えていきます。

「カタクリの会」は、カタクリ群生地で知られる岩手県西和賀地域での自然観察会の開催を目的として平成元年に設立しました。以来、国有林内外において毎月開催してきた観察会には、現在までのべ約8,000人が参加しています。



活動報告会の様子

これからも、このような国有林をフィールドとした活動を通じて、森林・林業に対する人々の理解が深まり、国民参加による森林づくりが一層推進されることを期待します。

平成21年からは岩手南部森林管理署と遊々の森「星めぐりの森」の協定を締結し、毎年、幅広い参加者を対象に、自然観察会をはじめ、ミズナラなど広葉樹の種子集めやポット苗づくりを行ってきました。育てた苗木は国有林内の未利用牧場跡地（平成24年に遊々の森に追加設定）に植樹し、森林の再生へ向けて取り組んでいます。

こうした遊々の森（協定面積約48ha）での活動は、近年では民間企業のCSR活動の場にも発展しており、地域活性化の一翼を担っています。

感謝状贈呈後に行われた活動報告会では、「万里の松原に親しむ会」三沢英一会長より、「会のモットーである『楽しく、生きがい、継続』を大切に、活動が続けていきたい」、「カタクリの会」瀨川強会長より、「年々参加者が増え植樹苗の確保が大変になっているが、星めぐりの森の再生を続けていきたい」と今後の活動に向けた意気込みの言葉がありました。